**篤志解剖全国連合会第41回団体部会大学部会合同研修会および**

**第18回解剖技術研究・研修会参加報告**

医学系部門 基礎社会医学班

中谷 宣弘

**1. はじめに（目的等）**

　本会はともに日本解剖学会学術総会に併催される、献体に携わる教職員を対象とした研修会である．篤志解剖全国連合会第41回団体部会大学部会合同研修会（以下　篤志解剖研修会）は篤志解剖に携わる事務局，教員等からの発表を通して意見交換を行う会である．また，第18回解剖技術研究・研修会（以下　技術研修会）は実際に献体処置を行う技術職員で構成され，日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等について意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることを目的としている。

**2.期間・場所**

　　期間：2017年3月26日（日）～3月27日（月）

　　場所：長崎県長崎市　長崎大学文教キャンパス（篤志解剖研修会　26日）

　　　　　　　　　　　　　　　　坂本キャンパス（技術研修会　27日）

**3. 参加者等**

篤志解剖研修会；各大学の解剖講座教員，篤志解剖事務局理事・事務員など，　210名

技術研修会；各大学の解剖学技術系職員　約50名

**4. 研修内容**

　篤志解剖研修会では、後見人制度をテーマとした3演題を聴講し，技術研修会では教育講演と一般演題3演題を聴講した。また、26日は技術研修会の幹事会もあり、これに参加し進行の打ち合わせを行い、当日は会場準備・片付け、受付と会計業務を行った。

**5.まとめと感想**

今回の篤志解剖研修会のテーマであった任意後見制度は，認知症などで自分の判断能力が低下した場合に備え事前に自分の生活や財産管理をお願いする制度で，本人及び家族の同意が必須の献体にも非常に関連性がある．広島大学の献体事務は事務方に一任しているためこのあたりの法律に疎いのだが．行政書士の先生から法律についての分かりやすい講演もあり，非常に理解しやすく参考になった．また，技術研修会ではホルマリンを使わない遺体固定の方法が紹介され特に興味をもった．来年度，その実地研修を行う予定があるとのことなので是非参加し，新たな処置技能を取得したいと思った．